

平成29年度研究テーマ **確かな学力を支える読解力の育成**

**大津町小中学校共通実践事項**

- (1)話し手に体を向けて聞く (2)「めあて」と「まとめ」の明示  
 (3)家庭学習の習慣化 (4)県学力調査に向けた課題克服プリントの計画的活用

9月27日(水)  
米多

今回の大研は国語科の読む単元「サラダでげんき」を1年2組で行いました。1年生のこの時期で目づ、活用を図る授業ということで、授業者の清永先生は悩まれることが多々あったかと思えます。貴重な授業をしていただき、参観者は大変勉強になりました。清永先生、1年2組の子どもたちに感謝したいと思います。では、大研を振り返り、これからの方向性を再度確認したいと思います。

まず、先生方からの意見から成果と課題をおおまかにまとめました。そこから見えてきたものを述べていきます。

**<成果>**

**①めあてとまとめ (課題設定)**

→校内研で提案した“問題解決型のめあて”で授業をされました。「お母さんが食べたサラダはどれ？」としたことで、考えることが焦点化されました。答えを選択することで、苦手な子どもたちも考えをもちやすく、みんな同じスタートラインに立てました。また、選んだものが違うことで子どもたちの中に問いのズレが生じ、どれが本物なのかという学習意欲が喚起されました。まとめは答えと理由の形になりました。授業者はもちろん、子どもたちも最後までスッキリした結末になったのではないのでしょうか。

**②絵**

→絵から入り、絵をもとに考えることは非常に有効だと先生方も感じられたと思います。特に低学年では挿絵等を効果的に活用したいところです。

**③発言のコーディネート**

→清永先生の発問で子どもたちの思考が深まっていたと思います。子どもをゆさぶる発問、子ども同士をつなぐ発問を私たちも心がけたいと思います。

**④学習訓練**

→話の聴き方や発表の仕方がよかったという意見がありました。大津町小中学校共通実践事項の「話し手に体を向けて聞く」につながる姿がありました。

## <課題>

### ①叙述をもとに

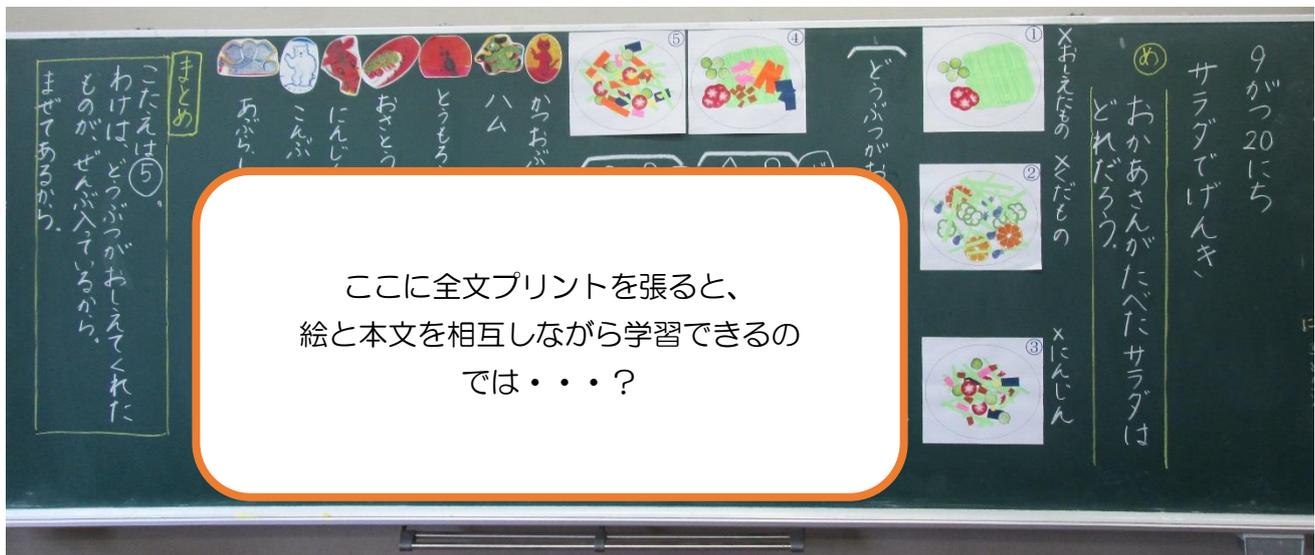
→「記憶にたよって発言する子が多かった。」「もっと本文（叙述）にかえる必要があった。」というご意見が多くありました。そこで、「どうして、そう考えたのか、それが分かる言葉や文にサイドラインを引かせる。」や「電子黒板に本文を写し、適宜確認する。」などの工夫が必要だったというご意見もありました。個人的には、全文プリントを黒板に張り、絵と本文を常にリンクさせながら進めるのもいいと感じました。※下図

（終わった後だから言えることですが・・・）

また、ペア対話を増やし、叙述を確認し合い、叙述をもとに意見が言える子どもが育っていくといいなと思いました。（言葉の着目の仕方を共有する。）

### ②絵

→「絵が分かりづらかった。」というご意見がありました。確かに、一度食材を確認する等、もう一工夫する必要があったかと思います。つまり、食材を共有化させることが必要だったかなと思います。



筑波大付属小の桂先生が国語授業のUDの視点として、①焦点化 ②視覚化 ③共有化が提唱されています。今回の授業はサラダを選ぶというシンプルな活動で焦点化され、サラダの絵をもとに考えていくという視覚化もできていました。苦手な子どもたちにとっても分かりやすかったのではないのでしょうか。

また、次期学習指導要領で「主体的で対話的な深い学び」がいられていますが、選択する、答えを求める学習の流れ(問題解決型の授業)だったので、子どもたちは主体的に学び、対話する姿がありました。

今回の問題解決型のめあて以外にも、

- ★一番～はどれ？（選択）
- ★～は必要か（理由付け）
- ★～はどっち？（比較）
- ★～はいくつ？（数量）

などがありますので、ここぞという場面で取り組まれてください。

